

県外派遣報告書

審判員名	竜田 雅史	所属	U-15
大会名	第53回全国中学校バスケットボール大会		
期間	令和5年8月22日(火)～8月24日(木)		
会場	香川県高松総合体育館他		
スケジュール			
期 日	内 容	場 所	
8月21日(火)	審判会議・研修会	サンメッセ香川	
8月22日(水)	予選リーグ	香川県善通寺市民体育館	
8月23日(木)	決勝トーナメント・準々決勝	香川県高松総合体育館	
会議 講義 内容			
<p>挨拶 歓迎の言葉、香川県審判長、日本バスケットボール協会審判長、審判U15担当</p> <p>研修①「研修会テーマ設定の意図・大会運営にあたって」(東條輝正氏、加藤暁生氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今大会の研修の重要点 ・マンツーマン・ディフェンスに関する規則、処置について <p>研修②-1 「コール・ザ・オヴィアス」～コール・ザ・インパクト、ベーシックなプレーコーリング～(福岡敏徳氏・武田亜沙美氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの映像を見ながら、明らかなものをシンプルに取り上げることの重要性。逃すとコールする選手やチームが変わってしまう可能性がある。 ・IHを経験して→ベンチや選手はシリンドーをかなり気にして判定を注視している。 ・クルーで協力し、特に怪我につながるものを判定していく→特にプロテクトシューター <p>研修②-2 「コール・ザ・オヴィアス」～3POメカニクスからの分析～(市川雄介氏・岩月遼司氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我したプレーに判定がないと・・・審判のいる意味がない。 ・勝敗に影響を及ぼすものほど映像が出回る。EQQ,EO G ・判定できない時は、大体理由があるはず。(トランディション中・ローテ途中・ドライブからインパクトなど) <p>研修③「処置ミス0を目指して」～オフィシャルズとの連携と役割～(古畑咲氏・赤羽沙耶氏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを公正かつ円滑に運営するために、選手やベンチから信頼を得るために処置ミス0を目指す。 ・気づき→知る(把握)→術を持っている必要がある。(特に再開方法) 			
実技			
担当試合	期 日	8月22日(火)	男子 女子 予選Iリーグ
	対戦カード	伊那(長野) VS 龍雲(香川)	CC U1 U2
	相手審判	CC: 穂川苑子 氏(群馬) U1: 松崎祥学 氏(兵庫)	
ミーティング内容		主任 関谷洋平 氏(東京)	
<p>序盤から、それぞれの Primary での判定を積み上げていくことで、クルーで協力してスムーズに運営することができた。リードしているチームのHCから、クルーの判定に対して納得していないケースがあった。クルーがなぜファウルをコールしたか、またはコールしなかったかも含めて理解し、良いタイミングでコーチとコミュニケーションを取ることが大切であると感じた。ゲームコントロールについて、またカテゴリーが変わると選手とコミュニケーションをとる場面は多くなるので、今以上に知識と理解を深めなければいけないと感じた。</p>			

担当試合	期 日	8月22日(火)	男子 (女子)	予選Iリーグ
	対戦カード	本渡(熊本) VS メリノール(三重)	CC	U1 (U2)
	相手審判	CC: 関谷洋平 氏(東京) U1: 遠山良輝氏(香川)		
ミーティング内容		主任 穂川苑子 氏(群馬)		
<p>序盤からコンタクトが多く、またハイテンポな展開であった。試合を通して、特に前半はクルーワークに課題が残った。デュアルカバレッジエリアのダブルコールについて、どちらがコールをし、レポートに行くのか曖昧な時間帯があった。クルーがどのアングルで、どのプレーを見ているかを修正するのに時間がかかった。U15において、マンツーマンディフェンスのみという制限があるため、1on1ボール中心の視野にならないように注意しようという内容のPGCを行っていたが、試合の展開がヒートアップしてくるとクルー全体がボール中心の視野になっていたように感じたのが反省である。</p>				
担当試合	期 日	8月23日(水)	(男子) 女子	準々決勝
	対戦カード	五橋(宮城) VS 報徳学園(兵庫)	CC	U1 (U2)
	相手審判	CC: 福岡敏徳 氏(長崎) U1: 大西空氏(香川)		
ミーティング内容		主任 川井剛 氏(鹿児島)		
<p>五橋はエースを中心にしたハードワークを売りにし、報徳学園はスタート全員が1対1能力が高く、長身選手もいてバランスの取れたチームの試合であった。プレゲームカンファレンスでは、発展途上の中学生が、この試合でも成長し、怪我なく終わられるように最善を尽くそう確認した。試合では、自分のプライマリーを意識し、クルーで同じ基準で判定を積み重ねることが出来た。出来た要因を振り返ると、ゲームフローを意識した判定や選手への声かけ、ベンチ管理、TO管理などCCの福岡氏がクルーが安心して持っている力を出せる配慮をしてきていることを肌で感じる事が出来た。ゲームの中で沢山の情報を把握・分析し、試合を進めていくクルーワークを普段から意識し、力をつけなくては行けないと感じた。試合は互いに力を出し合い、2点差で五橋が競り勝った。</p>				
全体の感想				
<p>今回の香川全中に派遣させて頂き、以前の県外派遣では、大会や会場の雰囲気や初対面の方とクルーを組み、緊張などしましたが、ブロック審査や昨日までの特別埼玉国体を経験させて頂き、冷静さや落ち着きを持ってプレイを判断できるように、少しずつなってきたかなとも感じられました。担当した試合では、全試合U2でしたがCCMを発揮できるメンタルで準備し望めました。様々なライセンスの方と吹かせていただく中で、特に「発見」→「分析」→「判定」の「発見」が自分との差だとも感じました。危険な場所はどこか、試合の流れの変わり目など、気づきが遅いと痛感したので、発見を早くし、分析の時間を長くし、1つ1つ判定し、信頼される審判を目指したいと改めて思いました。</p> <p>最後になりましたが、香川全中の派遣にあたり、御配慮いただきました埼玉県バスケットボール協会の皆様や県内審判員の皆様、そして心温まる受け入れをして下さいました香川県バスケットボール連盟の皆様に深く感謝申し上げます。今後、より一層の努力をして参ります。ご指導、ご鞭撻の程宜しくお願い致します。</p>				